



2022年4月28日

各位

上場会社名 中部電力株式会社
代表者 代表取締役社長 林 欣吾
(コード番号 9502)
問合せ先責任者
経営管理本部決算グループ長 坪内 優和
(TEL 052-951-8211)

通期連結業績の前年実績値との差異に関するお知らせ

2022年3月期通期の連結業績と前期実績値との差異につきまして、お知らせいたします。

記

2022年3月期通期連結業績の前年度実績との差異(2021年4月1日～2022年3月31日)

| | 売上高 | 営業損益 | 経常損益 | 親会社株主に帰属する 当期純損益 | 1株当たり 当期純損益 |
|-----------------------|------------------|----------------|----------------|---------------------|----------------|
| 前期実績(A) (2021年3月期) | 百万円 2,935,409 | 百万円 145,694 | 百万円 192,209 | 百万円 147,202 | 円 銭 194.65 |
| 当期実績(B) (2022年3月期) | 2,705,162 | △53,830 | △59,319 | △43,022 | △56.90 |
| 増減額(B-A) | △230,247 | △199,525 | △251,529 | △190,225 | |
| 増減率(%) | △7.8 | — | — | — | |
| (ご参考) 前回発表予想(C) | 2,600,000 | | △80,000 | △50,000 | △66.12 |
| 増減額(B-C) | 105,162 | | 20,680 | 6,977 | |
| 増減率(%) | 4.0 | | — | — | |

業績差異の理由

収支の状況につきましては、連結売上高(営業収益)は、「収益認識に関する会計基準」の適用により、再生可能エネルギー特別措置法に基づく収益、およびこれに対応する費用が純額処理となったことなどから、前連結会計年度と比べ7.8%減少し2兆7,051億円となりました。

連結経常損益は、JERAにおける燃料トレーディング事業の利益増加などはあったものの、燃料価格の変動が電力販売価格に反映されるまでの期ずれが差益から差損に転じたことや、中部電力ミライズにおける卸電力取引市場の価格高騰による電源調達コストの増加などから、前連結会計年度と比べ2,515億円悪化し593億円の損失となりました。

また、収支悪化に伴う中部電力ミライズの純資産の毀損を抑制するため、渴水準備引当金取崩し202億円を計上しました。

さらに、2021年1月の電力需給ひっ迫に伴うインバランス料金の高騰による収益の一部を将来の託送料金から差し引く形で還元することに伴い、特別損失55億円を計上しました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純損失は430億円となりました。

詳細につきましては、本日開示しております「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

以 上